

合同研究会資料（レジメ）

日時：平成23年（2011）2月4日（金）13：00～17：30

場所：埼玉会館7B会議室

共同研究テーマ：資料保存

やまぎん史料館

I. 「やまぎん史料館」の概要

II. 史料館の設立経緯～史資料収集・保管～

III. 史料館の設立目的～コンセプト～

IV. 課題

I. 「やまぎん史料館」の概要

1. 組織

運営：銀行本体 カスタマーコミュニケーション部の管掌する施設
人員体制：8名

2. 史料館の構成～旧本店建物・展示棟・収蔵庫

(1) 面積

敷地	2,927.46㎡ (含む駐車場652㎡)
建物 旧本店	995.03㎡
展示棟・収蔵庫	3,048.26㎡ (収蔵庫1,350㎡)
展示棟：4階建て	1,698.26㎡
収蔵庫：3階建て	1,350.00㎡

(2) 旧本店建物～山口県指定有形文化財（平成17年10月4日 棟札とともに）

建築：大正9（1920）年5月21日 三井銀行下関支店として
設計：長野宇平治 工事：竹中工務店

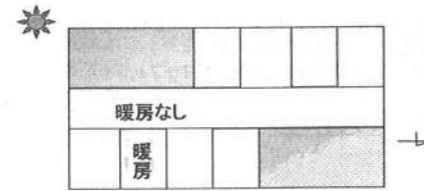
窓の封鎖-防犯性能

- ・「防犯建物部品」とは「防犯性能の高い建物部品目録」に掲載・公表された建物部品のこと
- ・CPマークを表示できる
- 防犯フィルム
- 鍵
- ドア
- シャッター
- ガラス類 など



管理方法の検討

<温度調整機能がある場合>
壁などの連続帯から熱は伝わるので、区画間で温度差が大きくならないように制御送風して平均化する



既存施設の可能な改良計画

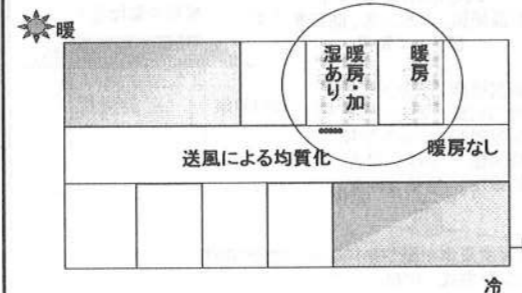
冷氣は下から侵入
カーテンは床まで届くように

空気をたくさん含んだ材料を貼る
窓ガラス
腰壁や巾木などの出っ張りを利用して“ぶちぶち”を

赤外線放射温度計で壁の表面温度を突測すると確実に対応できる

管理方法の改良

冷氣とぶつかる場所で結露・高湿度が生じる



管理方法の検討

区画が大きいと、室内に温度分布ができる
→管理しやすいよう1室単位はあまり大きくしない

南・西は暖かい・・・閲覧？
北・東は冷える・・・フィルム保管？

<温度調節がない場合>
建物内温度差も管理の上で有利になるよう計画的に利用

温度むらを解消するため送風装置を

資料保存の基本

資料を正しく理解する(材料・技術・構造)
→ 劣化を予測する
→ 適した環境制御の選択

ゾーニング設計、設備対応と更新・管理

「手をかけ、目をかけ」
資料を大事に思う心が資料をまもる

構造：煉瓦および鉄筋コンクリート造2階建、地下1階、陸屋根
様式：古典主義建築様式の大正時代の代表的銀行建築。
耐震補強：床、柱、壁（2階会議室）、天井（梁）、煙突
復原箇所：客溜床タイル、風除室、営業室カウンター、営業部長室

(3) 展示棟・収蔵庫

①展示棟

②収蔵庫

(4) 駐車場 26台分

3. 来館者数（平成22年12月31日現在）

開館（平成20年11月25日）以来 15,964名
旧本店開館（平成17年10月）以来 21,360名

4. 開館情報

休館日：月・火曜日、祝日（ただし、土・日が祝日と重なる場合は開館）、
12月29日～1月3日
開館時間：10:00～17:00
入館料：無料

II. やまぎん史料館設立経緯

準備期間

H9年（1997）

創業120周年記念事業検討委員会

- ・銀行史編さん（決定）
- ・旧本店を資料館として活用する案を検討するも経営環境悪化もあり、見送りとなる。

H10年（1998）

創業120周年（前身銀行 第十国立銀行 M11.11.25）

- ・銀行史編さん担当は日々発生する経営資料収集、保存の必要性を認識し、経営に提言。

H11年（1999）

8月 銀行史発刊

- ・発刊後も編さん担当7名のうち3名を史料担当として残す。
- ・史料担当3名は収集保存史資料とともに旧本店に移り、残務整理に当る中でアーカイブ事業、資料館（展示棟・収蔵庫）の構想を提言。
 - 前身銀行史資料は整理できていたが、損傷が生じ始めていたこと。
 - 今回銀行史編さんのために収集した史資料が未整理のまま分散収納されていたこと。

H13年（2001）

- 4月 各方面より旧本店建物保存要望あり、経営に報告。
- 5月 史料館検討委員会が改組・再発足。
- 7月 旧本店建物の文化財的価値調査、耐震調査

H14年（2002）

- 5月 旧本店建物保存復元工事と耐震工事の実施と予算額を経営会議にて決定。
- 9月 収益環境厳しい折、全体構想を含め再検討となる。

12月 取締役会

- ・文化財調査を含め復元工事を行うこと。
 - ・山口銀行創立時の姿への復元工事をおこなうこと。
 - ・復元工事費は増額して改めて経営会議に付議すること。
 - ・旧本店保管の史資料は既存建物を利用することとし、収蔵庫は作らないこと。
 - ・展示棟は必要ではあるが新築は当面見送ること。
- を決定。

H15年(2003)

6月 史料担当、旧本店収蔵の史資料とともに既存建物(漁港出張所)に移転。

第一期 工事

H16年(2004)

3月 旧本店建物修理工事着工(3月25日)

H17年(2005)

3月 旧本店建物修理工事完了(3月31日)

10月 旧本店建物が山口県指定有形文化財に指定(10月4日)。

一般公開開始。(10月3日)

○不良債権処理一応の解決(終了)

11月 史料館検討委員会

旧本店建物活用を創業130周年(H20)記念事業として位置付け、引き続き検討・協議。

第二期 工事

H18年(2006)

11月 旧本店建物に展示棟、収蔵庫(新設)を加えた「やまぎん史料館」構想をまとめ、12月の経営会議に付議。

10月2日 山口FG設立 12月8日史料館設立決議(創業130周年記念事業として)

H19年(2007)

7月 「やまぎん史料館」(展示棟・収蔵庫)着工(7月)

H20年(2008)

5月 「やまぎん史料館」(展示棟・収蔵庫)竣工(5月)

6月 史料担当 やまぎん史料館に史資料とともに移転。開館準備。

11月25日 開館(130周年応答日)

◎銀行の史資料を銀行史編さんのためだけでなく、今日の経営に活かすべく収集、保存、管理、活用するという考え、方針を経営者が打ち出したこと。

◎ 山口銀行創建時の建物(近代建築遺産)と銀行史資料、山口県の文化の紹介

Ⅲ. 史料館の設立目的～コンセプト～

当行の企業理念「地域のよきパートナーとして取引先に最高の満足と将来の豊かな生活を約束する」ことの実現の一つとして史料館を建設し、当行の保有する歴史的な資産などを公共財と捉え、地域金融機関としての公共性を体現する。

(1) アーカイブ業務の拠点

(2) 地域社会に対して「場」の提供～「学び」「憩い」「交流」

Ⅳ. 課題

(1) 当面の課題～アーカイブ事業

(2) 中長期的課題～運営上の課題

問題点の根源：創業記念日に焦点を合わせた開館であったことは否定できない。
走りながら考えざるを得ない状況

以上